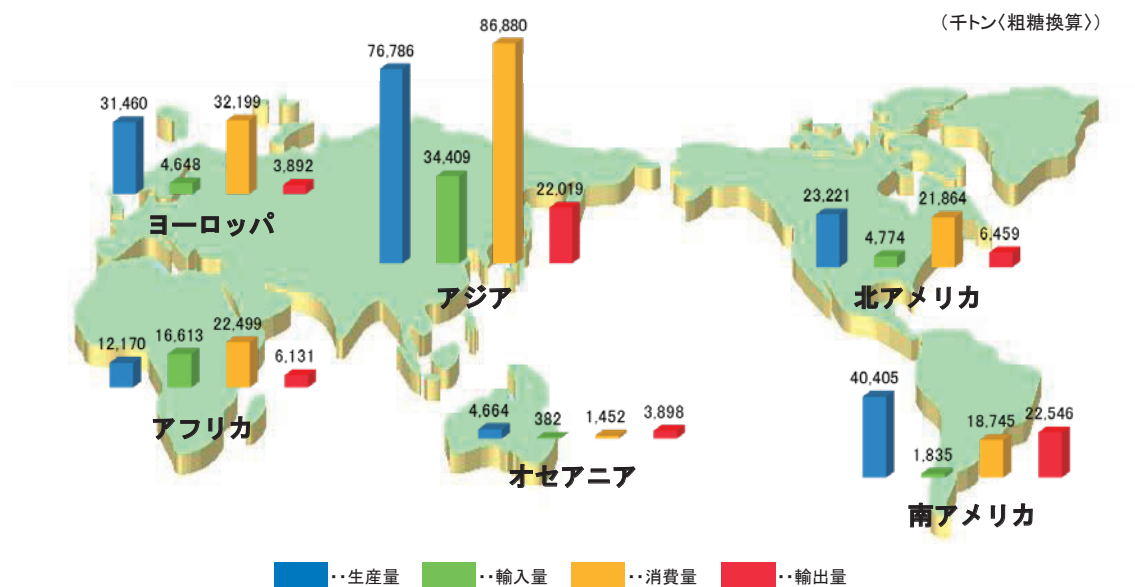


砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2019年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2018/19年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2019」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2019年3月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2018/19砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、前回予測から2.0%上方修正し、1億8871万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、前年度比3.4%減）とやや減少すると見込まれている（表1）。北アメリカやアフリカは前年度を上回る一方、ヨーロッパは天候不順によりてん菜の生産量が減少する見込みであることに加え、ブラジルがサトウキビのエタノール生産への仕向け割合を増やしていることを受け、全体として生産が減少すると見込まれている。

同年度の世界の砂糖消費量は、前回予測から0.9%下方修正し、1億8329万トン（同1.0%増）とわずかな増加が見込まれている。世界の砂糖需要をけん引するインド、中国が昨今の景気動向を反映し、引き続き消費量が堅調に増加すると見込まれるほか、人口増を背景にアフリカの消費量も増加が見込まれている。

この結果、2018/19年度は、生産量が消費量を上回り、期末在庫率は40%台を維持すると見込まれることから、世界の砂糖需給は引き続き緩和傾向で推移するものとみられる。なお、地域別の砂糖需給は、図1の通りである。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,122	160,315	56,023	164,767	56,244	50,449	30.6
2013/14	63,423	184,058	58,323	175,184	61,044	69,576	39.7
2014/15	69,576	183,717	59,707	176,521	62,081	74,397	42.1
2015/16	74,397	175,955	67,776	179,670	69,077	69,382	38.6
2016/17	69,382	180,614	70,844	181,854	71,080	67,907	37.3
2017/18	67,907	195,323	66,038	181,456	68,064	79,748	43.9
2018/19 (2018年12月予測)	78,507	185,027	62,152	184,888	63,394	77,404	41.9
2018/19 (2019年3月予測)	79,748	188,706	62,662	183,289	64,945	82,882	45.2

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2019」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

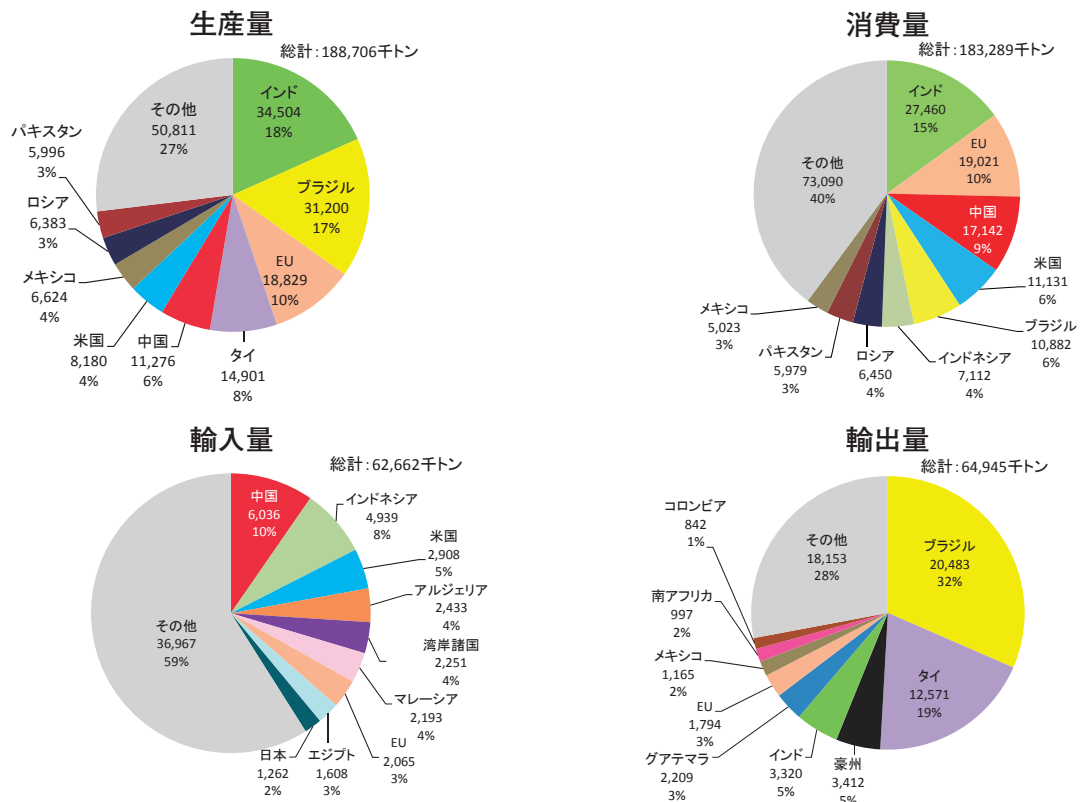
注2：2017/18年度および2018/19年度は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 主要国の砂糖需給（2019年3月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2018/19年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2019」

注1：主要国の年度は、各国の砂糖年度。

注2：主要国とその他を表示。

注3：「その他」は総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：輸入量のうち「湾岸諸国」は、アラブ首長国連邦、バーレーン、オマーン、カタールの合計。

【生産量】

2018/19年度の砂糖生産量を国別に見ると、インドは、砂糖生産量第1位のウッタル・プラデーシュ州でサトウキビが豪雨の被害を受けたほか、第2位のマハラシュトラ州と第3位のカルナータカ州で干ばつや害虫被害が発生した影響でサトウキビの生育が停滞したが、前年度と同程度のサトウキビ収穫量が見込まれることから、砂糖生産量は3450万トン（前年度比0.6%減）とほぼ横ばいで推移すると見込まれている（図2）。他の作物より収益性の高いサトウキビへの生産意欲の高まりを背景に、過去最大を記録した前年度に次ぐ生産量を維持すると見込まれるため、結果として、ブラジルを抜き世界第1位の砂糖生産国になるとみられる。

ブラジルは6月から8月にかけて主産地の中南部を中心に乾燥した天候が続いたことでサトウキビの生育にマイナスの影響が出ているほか、砂糖の国際価格の低迷を受けてサトウキビのエタノール生産への仕向け割合が7割に達する勢いで推移していることなどから、3120万トン（同24.8%減）と大幅な減少が見込まれている。

EUは、春先の寒波により、てん菜の播種^{はしゅ}が遅れたことに加え、記録的な猛暑に見舞われ、収量が大幅に低下するとみられることから、1883万トン（同12.9%減）とかなりの減少が見込まれている。

タイは、台風の勢力が弱まった熱帯低気圧が多く通過した影響でサトウキビの倒伏、茎葉の傷みなどが発生したことで、1490万トン（同4.4%減）とやや減少が見込まれている。

【輸入量】

中国は、砂糖への追加関税措置を継続する見通しであることから、604万トン（前年同）と横ばいで推移すると見込まれている。

他方、インドネシアは、昨今の景気動向や人口が右肩上がり推移していることなどから、494万

トン（前年度比15.9%増）とかなりの増加が見込まれている。

【消費量】

昨今の景気動向や個人消費が堅調に推移していることを踏まえ、インドは2746万トン（前年度比2.0%増）、中国は1714万トン（同1.2%増）、インドネシアは711万トン（同2.9%増）と増加が見込まれている。

【輸出量】

ブラジルは、砂糖の国際価格の低迷を背景に、砂糖の輸出に消極的でバイオエタノール生産を加速させる動きが見られることから、2048万トン（前年度比34.0%減）と大幅な減少が見込まれている。

EUは、てん菜の減産により砂糖生産量が消費量を下回り、輸出余力が低下するとみられることから、前年度の半分以上の179万トン（同52.9%減）まで減少し、平年並みに戻ると見込まれている。

他方、タイは、糖類を含む飲料に対する課税の本格的な運用が開始されることに伴い内需が縮小すると予想される反面、輸出意欲が高まるとみられることから、1257万トン（同24.7%増）と大幅な増加が見込まれている。

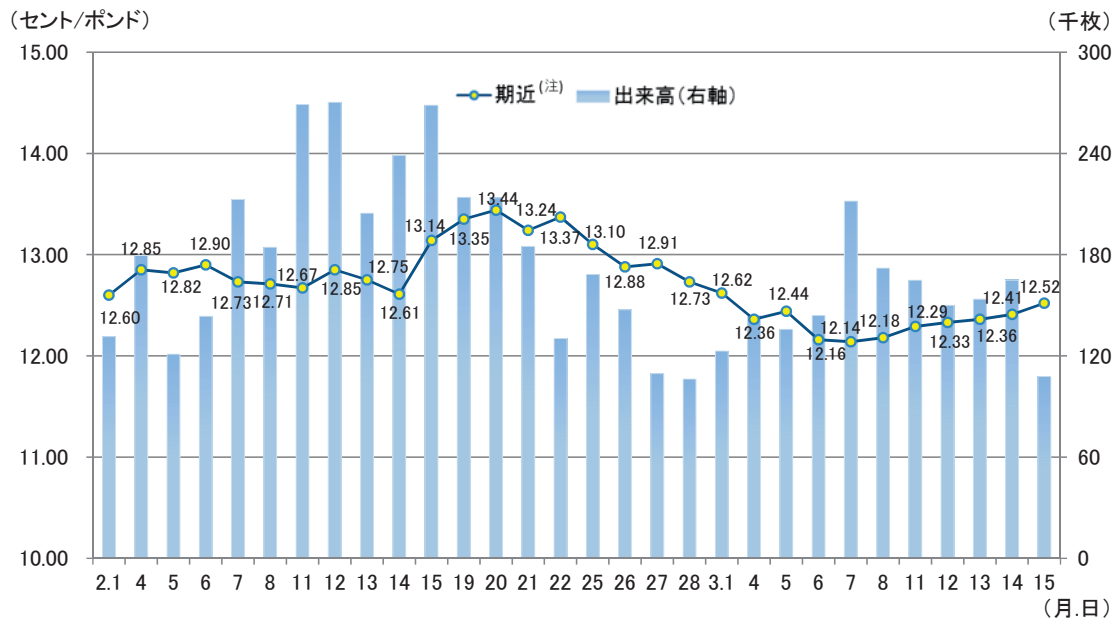
インドは、砂糖の過剰在庫の解消に向け、補助金政策や最低輸出義務の設定など、輸出に対する政府介入の度合いが強まっているため、332万トン（同40.6%増）と大幅な増加が見込まれている。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（2/1～3/15）

～主要生産国の生産見通しや原油相場に影響を受け、12～13セント台で推移～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：2月は3月限、3月は5月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場（3月限）2019年2月の推移を見ると、1日から14日までは1ポンド当たり12セント^{がつぎり}（注）台でもみ合いが続いた。15日は、原油高によってバイオエタノールの優位性が高まり、サトウキビの主要生産国であるブラジルがサトウキビをバイオエタノール生産に仕向ける動きが強まるとの見方から、同13.14セントの値をつけた。20日は、原油高に加え、インドにおける2019/20年度の砂糖生産の減少見通しも影響し、同13.44セントまで値を上げた。21日は、同13.24セントまで値を下げたが、22日は、米中貿易協議が大詰めを迎えるとの期待感から原油相場が急伸したことで、同13.37セントまで値を上げた。週明けの25日は、トランプ米大統領が石油輸出国機構（OPEC）に原油の増産を求めたことなどから、同13.10セン

トの値をつけ、26日はさらに値を下げて同12.88セントとなった。

5月が限月となった3月1日は、ブラジルの天候が回復し、サトウキビの生育が順調に推移していることから、同12.62セントの値をつけた。その後は、目立った材料がない中じりじりと値を下げる展開となり、7日には同12.14セントまで下落した。8日以降は、サウジアラビアやベネズエラが原油供給を引き締めるとの観測や、中国、バングラデシュ、イランにおいて砂糖輸入量が増加するとの見方が相場を支え、15日は同12.52セントまで値を戻した。

（注）1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2019年3月時点予測）

本稿中の為替レートは2019年2月末日TTS相場の値であり、1 インド・ルピー＝1.72円である。

ブラジル

2018/19年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：872万ha（前年度比1.2%増）
生産量：6億1550万トン（同4.0%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3120万トン（同24.8%減）
輸出量：2048万トン（同34.0%減）

2018/19年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅に減少する見込み

2018/19砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、872万ヘクタール（前年度比1.2%増）とわずかな増加が見込まれている（表2）。一方、サトウキビ生産量は、北東部地域の全域と中南部地域の一部で高温少雨が続き、生育の遅れが見られることから、6億1550万トン（同4.0%減）とやや減少が見込まれている。砂糖生産量は、砂糖の国際価格の低迷に加え、エタノール価格が堅調に推移し、サトウキビをバイオエタノール生産に仕向ける動きが加速すると予測されるため、3120万トン（同24.8%減）と大幅な減少が見込まれている。輸出量は、主要輸出相手国である中国が追加関税措置を実施していることなども影響して、2048万トン（同34.0%減）と大幅な減少が見込まれている。

ブラジル、インドの砂糖産業に対する補助金についてWTO提訴へ

ブラジル政府は2月27日、インド政府による砂糖産業への補助金が国際市場での公平な競争を歪め^{ゆが}ているとして、世界貿易機関（WTO）に提訴する手続きを始めたと発表した。

ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）^{（注）}は、今回の政府の発表に歓迎の意を表するとともに、「サトウキビは、砂糖を作り出す以外にさまざまな用途での利用が可能である。今回を機にインドにおいて、現在、製糖業者や生産者に支払われている補助金の財源が、それらの研究のために活用されることを願っている。われわれは、バイオエタノール生産に関して多くの実績とノウハウを有していることから、インドの製糖業者に技術的支援などを行う用意がある」と表明した。

（注）ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

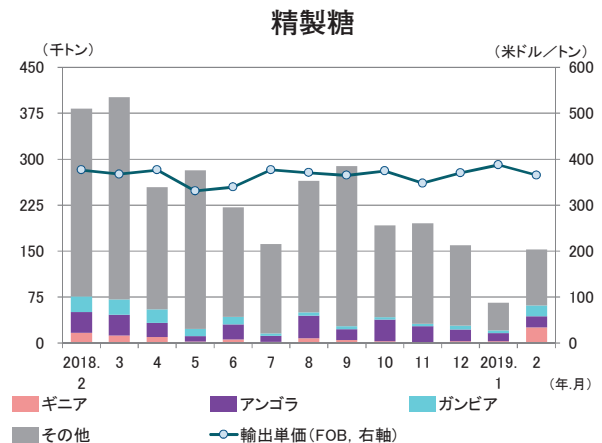
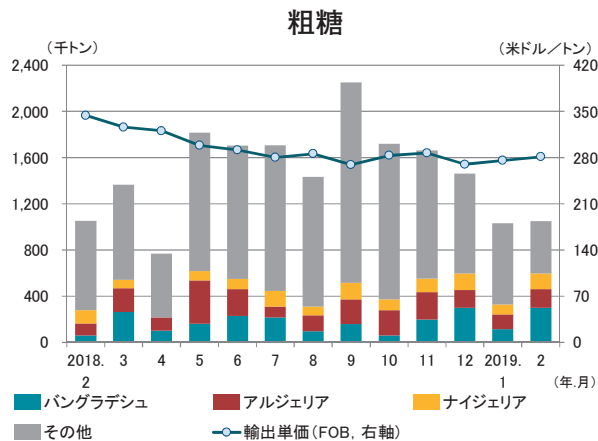
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (2月予測)	2018/19 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	8,188	8,488	8,617	8,719	8,719	1.2
サトウキビ生産量	666,824	651,841	641,066	612,500	615,500	▲ 4.0
砂糖	生産量	36,472	41,670	31,350	31,200	▲ 24.8
	輸入量	1	4	3	3	25.0
	消費量	12,057	11,275	11,211	10,882	▲ 0.5
	輸出量	26,023	30,117	20,140	20,483	▲ 34.0
	期末在庫量	739	1,022	198	390	▲ 29.3
	期末在庫率	1.9	2.5	0.6	1.2	0.07ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：512万ha（前年度比6.0%増）

生産量：3億9243万トン（同0.2%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3450万トン（同0.6%減）

輸出量：332万トン（同40.6%増）

2018/19年度、砂糖生産量はほぼ横ばいで推移する一方、輸出量は大幅に増加する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は512万ヘクタール（前年度比6.0%増）とかなりの増加が見込まれている（表3）。マハラシュトラ州やカルナータカ州において干ばつや害虫の大量発生がサトウキビの生育を停滞させたも

の、収穫面積の拡大により相殺され、サトウキビ生産量は3億9243万トン（同0.2%減）、砂糖生産量は3450万トン（同0.6%減）とほぼ横ばいで推移すると見込まれている。輸出量は、政府が製糖業者に対し500万トンの最低輸出義務を課すことから、332万トン（同40.6%増）と大幅な増加が見込まれている。

インド政府、サトウキビ生産者への延滞金を解消するための対策に乗り出す

インド政府は2月28日、製糖業者向けに790～1054億ルピー（1358億8000万～1812億8800万円）規模の低利子融資枠を設定する計画を承認した。これにより、製糖業者は市中の金融機関から一般より7～10%低い金利で融資を受けることができる。

インドでは、国内の砂糖価格の低迷などにより製糖業者の収益が圧迫され、資金繰りが悪化した影響で生産者への原料代の支払いが滞っており、2月22日時点で総額約2000億ルピー（3440億円）が未精算となっている。このため、今回の政府による低利子融資制度は延滞金の解消を最大の目的としており、製糖業者に融資される資金のほとんどは生産者への原料代の支払いに充てられるとみられる。

しかし、一部の業界関係者は、通常でも政府の計画が実行に移されるまで少なくとも2～3カ月の期間を要するうえに、5年に1度の総選挙を4～5月に控える状況にあるなどの政治情勢を考慮すると、迅速に対策が実施されるかどうか懐疑的な見方を示した。

インド政府、砂糖の最低支持価格を1キログラム当たり31ルピーまで引き上げ

インド政府は2月14日、現行1キログラム当たり29ルピー（50円）に設定している砂糖の最低支持価格^{（注1）}（MSP：Minimum Selling Price）を、同31ルピー（53円）に引き上げると発表した。今回の措置について、同国政府は製糖業者の収益性を改善することで生産者への原料代の支払いの延滞を解消することがねらいとしているが、一部の関係者は「総選挙に向けて農村部の有権者の支持を固めたい思惑がある」との見方を示している。All India Sugar Trade Association（AISTA）^{（注2）}によると、砂糖の国内価格が上昇すると、輸出するより国内に販売した方が利益を見込めるため、今後、製糖業者は砂糖の輸出量を減らす可能性がある。しかし、インド製糖協会（ISMA）は今回の措置でも採算に見合わないとして、同国政府に対し同35～36ルピー（60～62円）までMSPを引き上げるよう要求していくとしている。

（注1）政府による砂糖の買い上げ価格。

（注2）製糖業者、貿易業者、砂糖の大口仕入れ先など、砂糖産業関係者から成る協会。

表3 インドの砂糖需給の推移

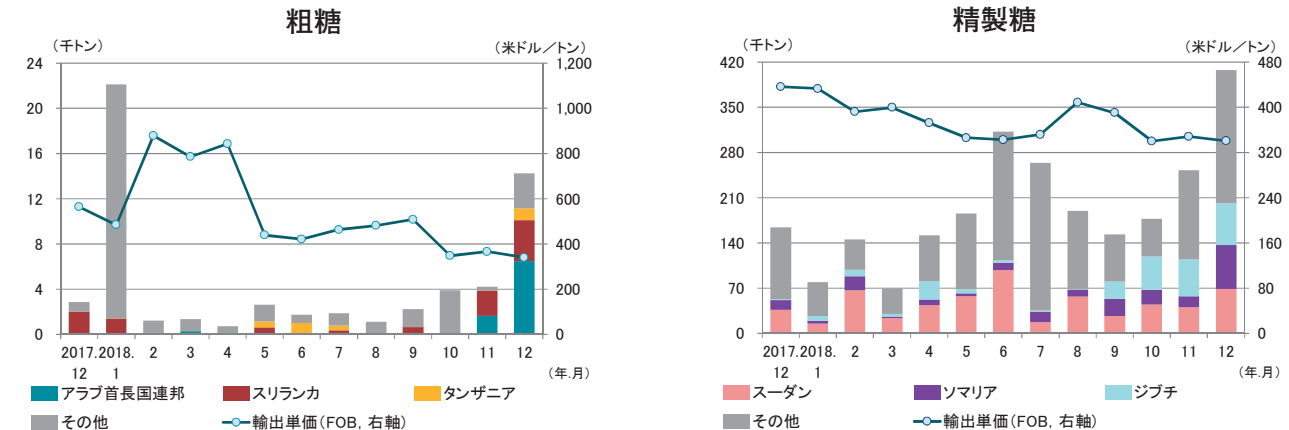
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (2月予測)	2018/19 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積		4,806	4,327	4,830	5,120	5,120	6.0
サトウキビ生産量		356,871	306,070	393,414	388,539	392,430	▲ 0.2
砂糖	生産量	27,091	21,848	34,720	33,857	34,504	▲ 0.6
	輸入量	2,146	2,536	2,291	1,121	350	▲ 84.7
	消費量	26,784	26,568	26,929	27,434	27,460	2.0
	輸出量	3,955	2,233	2,361	4,160	3,320	40.6
	期末在庫量	8,370	3,952	11,674	15,057	15,748	34.9
	期末在庫率	27.2	13.7	39.9	47.7	51.2	11.3ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：122万ha（前年度比1.0%減）

生産量：7859万トン（同2.4%増）

【てん菜】

収穫面積：24万ha（同30.5%増）

生産量：1167万トン（同21.7%増）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1128万トン（同1.2%増）

輸入量：604万トン（同0.4%増）

2018/19年度、砂糖生産量、輸入量ともにわずかに増加する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は122万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかな減少が見込まれる一方、生産量は7859万トン（同2.4%増）とわずかな増加が見込まれている（表4）。てん菜については、政府がトウモロコシ支援政策を変更^{（注）}したことでトウモロコシ価格が低下したことを受け、内モンゴル自治区などの生産者がてん菜への転作を進めていることなどから、収穫面積は24万ヘクタール（同30.5%増）、生産量は1167万トン（同21.7%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。以上のとおり、原料作物の増産が期待できることから、砂糖生産量は、1128万トン（同1.2%増）とわずかな増加が見込まれている。また、輸入量は、604万トン（同

0.4%増）とわずかな増加が見込まれている。

（注）政府は2016年4月、トウモロコシ備蓄政策について、最低保証価格を廃止し、市場買い付けとする変更を行った。

2019年1月の砂糖輸入量、前年同月と比べ大幅に増加

中国税関総署が2月23日に発表した2019年1月の貿易統計によると、砂糖の輸入量は13万トン（前年同月比4.2倍）で、前年同月と比べ大幅に増加した。しかし、雲南省と広西チワン族自治区でサトウキビ収穫の最盛期に入り、国内産糖の供給が十分にあったことや、春節を控え輸入貨物が緩慢な荷動きとなったことなどから、前月と比較すると23.5%減少した。2018年10月～翌年1月の総輸入量を見ると、98万トンと前年同期と比べ約2倍

の増加となった。ただし、この数量には台湾やミャンマーなどの周辺国を経由した密輸品が含まれてい

ないため、実際の輸入量はさらに多いと推測される。

表4 中国の砂糖需給の推移

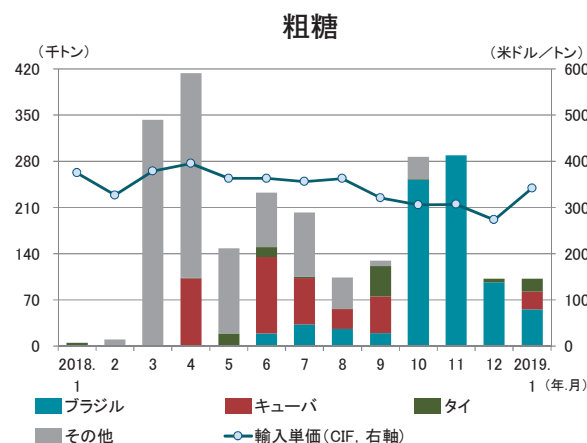
(単位: 千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (2月予測)	2018/19 (3月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,311	1,178	1,231	1,219	1,219	▲ 1.0
サトウキビ生産量	74,950	73,690	76,780	78,590	78,590	2.4
てん菜収穫面積	136	168	186	243	243	30.5
てん菜生産量	6,880	8,820	9,590	11,670	11,670	21.7
砂糖	生産量	9,405	10,041	11,461	11,276	1.2
	輸入量	7,910	5,715	5,856	6,036	0.4
	消費量	16,847	16,847	17,142	17,142	1.2
	輸出量	181	146	174	174	▲ 10.7
	期末在庫量	11,926	10,689	10,724	10,725	▲ 0.0
	期末在庫率	70.0	62.9	62.6	61.9	0.7ポイント減

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2019」

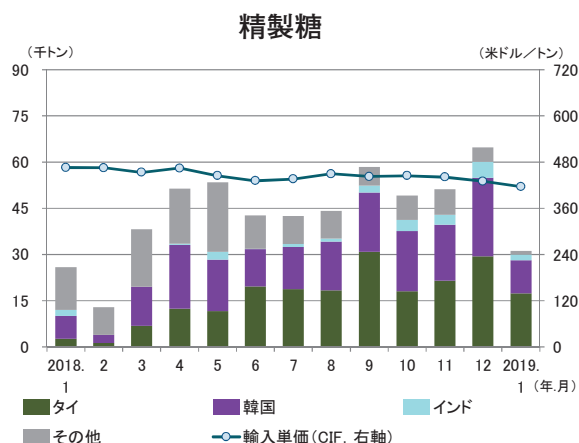
注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸入量および輸入単価の推移



資料: [Global Trade Atlas]

注: HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。



E U

2018/19年度 (10月～翌9月) の見通し

【てん菜】

収穫面積: 171万ha (前年度比1.1%減)
生産量: 1億1891万トン (同14.1%減)

【砂糖 (てん菜糖)】

生産量: 1883万トン (同12.9%減)
輸出量: 179万トン (同52.9%減)

2018/19年度、砂糖生産量はかなり減少し、 輸出量は大幅に減少する見込み

2018/19砂糖年度 (10月～翌9月) のてん菜の収穫面積は171万ヘクタール (前年度比1.1%減) とわずかに減少すると見込まれているが、生産量は1億

1891万トン (同14.1%減) とかなりの減少が見込まれている (表5)。てん菜生産量の減少に加え、てん菜に含まれる不純物が多いことも影響し、砂糖生産量は1883万トン (同12.9%減) とかなり減少する見込みである。輸出量は、前年度の豊作時と比較して原料

が減産となったことで、179万トン（同52.9%減）と、
 平年並みに戻ると見込まれている。

欧州委員会、ネオニコチノイド系農薬の例外的な散布も禁止を検討

現地報道によると、欧州委員会は2月19日、使用が制限されている農薬であっても、代替手段では害虫を抑止できない危険性がある場合に限り例外的に散布を認める措置について、ネオニコチノイド系農薬には適用しない方向で調整している考えを明らかにした。

ネオニコチノイド系農薬は、てん菜生産においてウイルス性の萎黄病を媒介する害虫を防除する最も有効な薬剤とされている。しかし、EUではその散布がミツバチなどの生態系に影響を及ぼすとして、同農薬のうちクロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサムを主成分とする薬剤については、2019年から屋外での使用が全面的に禁止された。その一方、2019年以前に欧州委員会が同薬剤の例外的な使用を認めたハンガリーやポーランドなどでは、承認期間を延長申請することによって引き続きの使用が可能となっていた。こうした欧州委員会の対応に、環境保護団体などから強い非難の声が出ていたことに加え、例外的な使用が認められていないEU加盟国からも「不公平である」と不満の声が上がっていた。

同薬剤の使用が禁止された経緯の詳細については、次のURLを参照されたい。

https://alic.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002218.html

EUの菓子業界、日本の原産地規則に懸念を表明

欧州チョコレート・ビスケット・菓子協会（CAOBISCO）は2月20日、同月1日に発効した日EU経済連携協定（日EU・EPA）において適用される原産地規則（注1）について、日本側が製品の原材料の重量を基準に原産地を判定している現状に懸念を表明した。EUで生産した菓子に使用している砂糖の中には、輸入粗糖を原料に生産されたものも一般に流通しているため、EU域内で栽培されたてん菜から生産された砂糖が製品にどの程度含まれるかを、菓子メーカーや輸出業者などが立証することは難しいとされる。このため、あめやキャラメル、チューインガムなど砂糖が多く使われる菓子は、原産地規則の要件を満たすことができず、結果として日EU・EPAによる関税引き下げの恩恵を享受できない可能性を指摘した。

CAOBISCOは、日EU・EPAの原産地規則について、EUがこれまで締結した貿易協定の相手国・地域の多くが採用している、価額基準（注2）で判定する内容に改めるよう求めていくとしている。

- （注1）関税の適用などのために輸入貨物の原産国を決定するためのルール。
 （注2）価額基準は、①製品の価額に占める非原産地から調達した原材料の価額の割合②製品の価額に占めるその国で新たに付与された価値の割合－のいずれかで判定する。いずれの方法も、非原産の原材料を多く使用したとしても、製品に投下した経費（労務費や加工費、販売経費などの原価）や原価に上乗せした利益が多ければ製品に占める割合は重量基準と比べ相対的に低くなる。

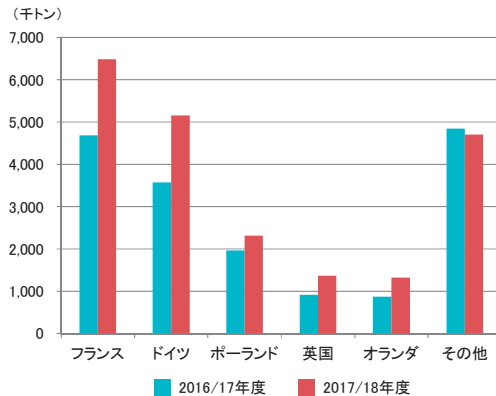
表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、％）

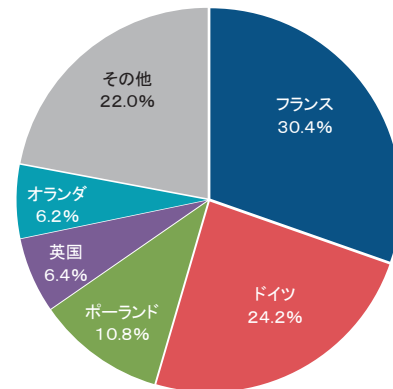
年度		2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (2月予測)	2018/19 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積		1,364	1,466	1,732	1,715	1,713	▲ 1.1
てん菜生産量		94,855	107,986	138,438	117,117	118,906	▲ 14.1
砂糖	生産量	14,937	17,069	21,621	18,793	18,829	▲ 12.9
	輸入量	3,651	3,115	1,731	1,848	2,065	19.3
	消費量	19,481	19,176	19,347	18,939	19,021	▲ 1.7
	輸出量	1,501	1,510	3,809	1,902	1,794	▲ 52.9
	期末在庫量	1,913	1,411	1,608	1,570	1,688	5.0
	期末在庫率	9.1	6.8	6.9	7.5	8.1	1.2ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2019」
 注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2018年12月時点)



資料：欧州委員会
 注1：精製糖換算。
 注2：2016/17年度は推定値、2017/18年度は予測値。



資料：欧州委員会
 注：2017/18年度。

5. 日本の主要輸入先国の動向 (2019年3月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2018年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が71.1%（前年比1.6ポイント増）、タイが28.1%（同3.1ポイント増）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はグアテマラを報告する。

本稿中の為替レートは2019年2月末日TTS相場の値であり、1タイ・パーツ=3.60円である。

豪 州

2018/19年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度比2.5%増）

生産量：3247万トン（同2.6%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：446万トン（同0.2%減）

輸出量：341万トン（同5.3%減）

2018/19年度、砂糖生産量はほぼ横ばい、輸出量はやや減少の見込み

2018/19砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、39万ヘクタール（前年度比2.5%増）とわずかな増加が見込まれるが、夏期にクイーンズランド州とニューサウスウェールズ州で発生した干ばつの影響を受けて、生産量は、3247万トン

（同2.6%減）とわずかな減少が見込まれている（表6）。ただし、乾燥気候によってサトウキビの糖度が上昇したことにより、砂糖生産量は446万トン（同0.2%減）とほぼ横ばいで推移すると見込まれている。輸出量は341万トン（同5.3%減）とやや減少すると見込まれている。なお、豪州気象局によると、1月末から2月初めにかけて、クイーンズラ

インド州北部で大規模な洪水が発生した。現地報道によると、サトウキビの圃場^{ほじょう}が浸水するなどの被害を受けたことから、2019/20年度のサトウキビ生産への悪影響が懸念されている。

インドの砂糖産業への補助金をめぐり、豪州とブラジルで連携

豪州政府は2月28日、インド政府による補助金は国際的な貿易協定に反する輸出補助金に当たるとして、WTO提訴の手続きに入ったと発表し、ブラジル政府との共闘態勢で臨む考えを示した。豪州とブラジルの両国政府は、まずインド政府との協議で解決を図るが、60日以内に解決できなければ、裁判の一審に当たるWTOの紛争処理小委員会（パネル）に提訴することになる。

サイモン・バーミンガム豪州貿易観光投資大臣は、提訴の手続きに踏み切った理由を、「昨今の砂糖の国際価格の下落は、インド政府による輸出補助金を引き起こしたものだと言え、今の価格水準では、製糖業者や生産者が再生産可能な収益を確保することが困難である。われわれは、インド政府に対し砂糖産

業への過剰な補助金の支払いをやめるよう再三求めてきたが、結局、互いの主張の溝は埋まらなかった」と説明し、「豪州にとってインドは、経済的にも、戦略的にも非常に重要なパートナーであるが、国際的に認められている権利はためらわず行使する」と述べた。

豪・インドネシアの両首脳、包括的経済連携協定に署名

豪州とインドネシアの両首脳は3月4日、インドネシアの首都ジャカルタにおいて、2010年から交渉を続けてきた包括的経済連携協定（IA-CEPA）に署名した。この協定の発効には、両国の国会で承認を得る必要があり、両国首脳は年内にこの手続きを完了させる考えを示した。

IA-CEPAでは、インドネシアにおける豪州産砂糖の輸入関税が現行の12%から5%に引き下げられる。これにより、豪州は東南アジア諸国連合（ASEAN）域内と同等の関税水準で輸出できるようになるため、ASEANの一員であるタイとの競合が激化することが予想される。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (2月予測)	2018/19 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	382	368	376	385	385	2.5
サトウキビ生産量	34,941	36,506	33,344	32,468	32,468	▲ 2.6
砂糖	生産量	4,889	4,797	4,455	4,455	▲ 0.2
	輸入量	164	68	29	29	0.0
	消費量	1,196	1,159	1,112	1,068	▲ 4.0
	輸出量	4,384	4,004	3,601	3,412	▲ 5.3
	期末在庫量	1,267	969	747	751	0.6
	期末在庫率	22.7	18.8	15.8	16.8	0.9ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：179万ha（前年度比0.9%増）

生産量：1億2900万トン（同4.4%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1490万トン（同4.4%減）

輸出量：1257万トン（同24.7%増）

2018/19年度、砂糖生産量はやや減少する 一方、輸出量は大幅増の見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、179万ヘクタール（前年度比0.9%増）とわずかに増加すると見込まれている（表7）。台風の勢力が弱まった熱帯低気圧が多く通過し、サトウキビの倒伏、茎葉の傷みなどが発生した影響を受けて、サトウキビ生産量は1億2900万トン（同4.4%減）、砂糖生産量は、1490万トン（同4.4%減）とやや減少が見込まれている。一方、輸出量については、前年度のサトウキビの豊作により積み上がった過剰在庫を解消するため輸出を強化するとみられることから、1257万トン（同24.7%増）と大幅な増加が見込まれている。

砂糖税による税収、前年同期比約3%増

タイ財務省物品税局は、2018年10月から翌2月までの5カ月間で得られた糖類を含む飲料への課税（砂糖税）による税収が、前年同期比で約3%、額にして約3億バーツ（10億8000万円）増加したと発表した。加えて、同局は「砂糖税を導入する以前の飲料に含まれる糖類の平均含有量は100ミリリットル当たり14グラムであったが、現在は同12グラムまで減少した」と成果を強調した。

砂糖税の導入3年目となる2019年10月から税率が引き上げられる予定であることから、国内の飲料メーカーは、飲料消費が低迷することを回避するため、飲料に含まれる糖類を削減したり、糖類の代わりに代替甘味料を使用したりするなど対応を急いでいる。

表7 タイの砂糖需給の推移

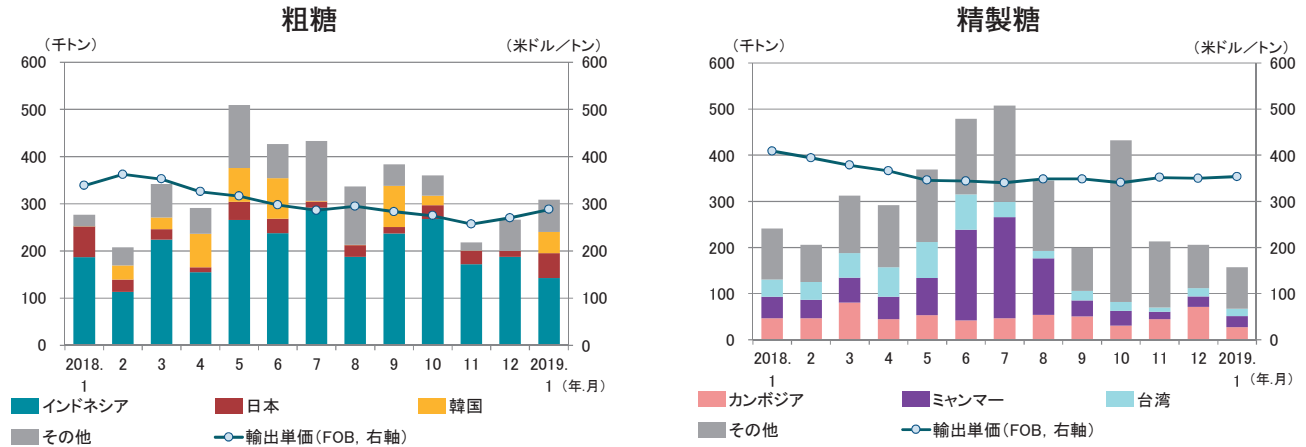
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (2月予測)	2018/19 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,644	1,578	1,776	1,792	1,792	0.9
サトウキビ生産量	94,047	92,951	134,929	125,000	129,000	▲ 4.4
砂糖	生産量	10,402	10,657	14,385	14,901	▲ 4.4
	輸入量	1	0	2	3	▲ 48.4
	消費量	3,272	3,283	3,132	3,132	▲ 6.3
	輸出量	7,932	7,393	13,350	12,571	24.7
	期末在庫量	3,970	3,951	4,028	5,325	▲ 13.0
	期末在庫率	35.4	37.0	45.6	24.4	33.9

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料:「Global Trade Atlas」

注: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

グアテマラ

2018/19年度(4月～翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 26万ha(前年度同)

生産量: 2559万トン(前年度比1.3%減)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量: 296万トン(同0.1%減)

輸出量: 221万トン(同20.9%増)

2018/19年度、砂糖生産量はほぼ横ばい、 輸出量は大幅に増加の見通し

2018/19砂糖年度(10月～翌9月)のサトウキビ収穫面積は26万ヘクタール(前年度同)と横ばいが見込まれている一方、生産量は2559万トン(前年度比1.3%減)とわずかに減少すると見込まれて

いる(表8)。

砂糖生産量についても、296万トン(同0.1%減)とほぼ横ばいになると見込まれている。輸出量については、221万トン(同20.9%増)と大幅に増加し、平年並みに戻ると見込まれている。

表8 グアテマラの砂糖需給の推移

(単位: 千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	269	256	264	264	0.0
サトウキビ生産量	27,987	25,835	25,936	25,588	▲1.3
砂糖	生産量	3,039	2,927	2,965	▲0.1
	輸入量	0	0	0	-
	消費量	839	898	924	2.9
	輸出量	2,210	2,164	1,827	20.9
	期末在庫量	858	724	938	▲21.1
	期末在庫率	28.2	23.6	34.1	10.7ポイント減

資料: LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2019」

注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。